

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月8日（火）午後7時30分～9時00分
場 所 和泉小中学校 体育館
出席者 和泉小学校区住民 15名、報道1名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

- ①教育長あいさつ
- ②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）
- ③質疑応答

参加者 スクールバスについて、中部縦貫が繋がるから、歯科医や和泉の生徒も大野に通うという物差しは誰が決めたのか。中部縦貫の交通予測をしてスクールバスの運行を計画しているのか。文科省の資料では、長時間の通学はストレスがかかることが書かれているが、この資料を見たことがあるか。コロナがいまだまん延している中で、クラスターが発生した場合、誰が責任を取るのか。

市教委 スクールバスの運行については、どこを通るかはまだ決まっていない。その都度、運行経路の中で、毎年生徒がいる所で学校と無理のないところで話し合っ決めていく。長時間になるが、もし中部縦貫が有効であるとなればそこを通る。冬の間、暫定1車線、追い抜き車線はあると思うが、不安もあるため柔軟に対応したい。話し合いの中で決めていきたい。

文科省の資料は目を通したことはない。以前の計画では、再編は中部縦貫ができる年が前提だったが、今回の検討委員会の答申では、中部縦貫が開通した状況を見ながら再編を進めていこうとなっている。スクールバスによる長時間の負担があるということの課題はある。状況を見てというのが第一にある。検討委員会で出てきた意見では、負担を考えると小学生には無理があるということで、和泉地区は中学校のみの再編という意見が出た。中学校の再編を考え、その後で小学校の再編と順を追って考えていったが、和泉小中学校に関しては、特出しして検討しようということで議論された。慎重に、和泉のことを検討委員会の委員さんが考えて検討した。コロナのことは、再編が令和6年度になるので現時点では予測が難しいが、現在も各小中学校の対応は最善を尽くしている。状況を見ながら適切な対応をしていきたい。

参加者 コロナのことがあるなら、分校方式もよいと思う。

参加者 遠距離通学になると、学校に行って病気になった時などの問題がある。

和泉なら、すぐに連絡を取って保護者に来てもらうことや保健室で待機することができるが、大野市に行くと仕事や距離の関係ですぐに保護者が来ることができないということもある。そういった場合の生徒の保護についてはどういう対応を考えているのか。

市教委

一番心配なことだろう。今は診療所に優秀な先生がいて、適切に対応いただいていると聞いている。現在、和泉地区以外の小中学校でも、保護者が福井市に勤めている方もいる。自分の経験でも、現在もそうだが、子どもが病院にかかるようなけがをした時は保護者に連絡を入れ、次にかかりつけ医、近くの医者、もっと大きな事故では救急車での搬送もあるが、その時は、例えば養護教諭、いわゆる保健の先生が引率をして、どこの病院に行くということを保護者と連携を取り確認をして、子どもと一緒に先に病院に行く。保護者の方が後で合流して状況を説明する。今後も子どもの安全を第一に考えた対応をしていく。

参加者

協議会の中で、冬場、冬季の授業についてリモートで行う話が出たか。

市教委

検討委員会ではそういった話はでなかった。GIGAスクール構想の中で1人1台のタブレットの配備が令和3年度から始まった。冬季にどうしても学校に通う条件が難しい場合、今後はリモートでの授業も可能になるだろう。

参加者

再編を議論する時、教育環境だけに限らず、例えば市がどんな和泉の地域づくりをしてきたのかが大事だ。人口が減った、子どもが減った、だから学校再編というだけでは行政の責任が飛んでしまっている。和泉地区がどのように活性化し、人口が増えてくるというような方策を併せて議論することが必要ではないか。

複式学級の解消、専門教科職員の配置のために再編するのは、教育環境の整備をするのは行政の責務であり、国や県教委の縛りもあり、なかなか教員を配置できないという問題があるが、一方で市がやる気ならば教員を配置することもできるのだから、大野市はこれまでどのような努力をしてきたのか。

再編を進めると教職員はどれくらい削減されるのか。

前回の再編の論議では全市的な議論があったが、今回は情報提供するという点では手間暇かけてされていると感じる。前回の議論では、教育がこのように変わる、大学入試がこのように変わる、国がこんなことを考えている、それに合わせた大野の教育改革をしていく必要がある、そのためには学校再編だという上から市民や保護者を見下ろすような視点で議論が提起された。今回はていねいに地道に分かりやすく提供されていることは評価したい。しかし、地域ごとに説明会をするだけで、市全体の議論する場

所がない。必要ではないか。

市教委

再編の議論を始めるときに、大野市がどこを目指すかをまず明らかにしようということから始めた。検討委員会にも大野市が目指す教育とはこういうものということで、説明会の資料にあるように、小中学校はミッションが違い、小学校は基本的に地域で、中学校はもう少し広いところで、というところから始めた。意見交換会には大野市全体で41カ所行った。その中で皆さんからお聞きしたことが生きている。しっかり、我々はそしゃくをして、教育委員会の基本的な方針とした。これは教育委員会だけで考えたのではなく、市民の皆さんから41カ所でお聞きしたものを、市民目線での意見をお聞きして取り入れたと思っている。一昨年度にたくさんの方と話をした。昨年度には、各階層、男女、世代の違う市民の皆さんから検討委員会に14名、福大の副学長に委員長になってもらった。そこでの議論は、2年前の議論の集約だと感じた。市全体での議論を提案していないのは、このように、保護者の立場、地域の立場、女性の立場、教員の立場からの話をお聞きして、積み上げ感があると思っているからである。

専門教科については、やる気があれば小さい学校にも配置することはできるだろう。しかし、教室の中で教員1人と生徒1、2人で専門的な授業をしても、それには違和感がある。教員をやってきて、ある一定の人数の中で子どもは育つということは外せないという確信に近い思いを持っている。

教職員の定数については、資料11ページでは、中学校の現状で開成中学校が1年3クラス、2年3クラス、3年4クラス、陽明中が1年4クラス、2年4クラス、3年4クラスある。統合した後は資料7ページによると、例えば令和6年度は陽明中では1年4クラス、2年4クラス、3年4クラスだが、開成中学校は統合することで学級数が増える。基本的に教員の数はそんなに大きくは減らない。小学校は複式を統合しても、統合になった学校の学級数は変わらない。乾側小は複式学級で3クラスあり、下庄小学校で12学級に入っても同じ12学級。教員の配置は学級数が基本になって配置される。小学校に関しては、教員数は複式の学級が減った分だけ減る可能性が高い。

参加者

教育職員というかどうか。

市教委

教育職員では、事務職員、校長、教頭、養護教諭は減る。中学校も同じ。

参加者

地域づくりのほうは。

市教委

市長は、昨年度ぐらいから地域づくりは和泉地区を模範に、と指示している。なんとか地区を盛り上げ、生き残りのために頑張っていることに敬意を表したい。今後は公民館そのものを地域づくり部に移管して、拠点と

してもう一度地域づくりの核となるよう取り組みを進めている。各地区の区長会にも市長が同行し、地域課題解決のための取り組みがスタートしている。市が何をしてくれるのかというのではなく、地域の方々と一緒に考えていく取り組みがスタートしている。和泉だけでなくどの地区も地域づくりが課題になっている。皆さんと一緒に課題解決に取り組めるように頑張っているところだ。

参加者 再編に向けて、中学校でなじめるように交流することが書いてあったが、小学生が小学校の間に、陽明、尚徳に行く小学生と交流することはできないか。上庄小と下庄小と1年おきに交流はあるが、コロナでなくなっている。今後、年1回ではなく増やしてほしい。

市教委 考えていかななくてはいけない大事なところだ。今年の乾側小学校の再編に向けて、準備委員会を立ち上げ、乾側小学校の子どもたちが下庄小学校の子との交流会を6回行った。最初は短い時間で、後からは給食を一緒に食べるという交流もした。中学校になる前の小学校の交流は、教育委員会としても、再編計画について確実に行うことで、できれば今年度中に案を取れるよう、皆さんのご意見を取り入れながら再編計画を改訂したい。その結果、準備委員会を早く設置することによって、ご意見をもとに教育委員会と保護者、地域の方といい案を出しながら、小学校でも交流するとよいなというような準備を進めていきたい。参考になるよいご意見をいただいた。準備委員会の方と一緒に考えていきたい。

小さいことに見えるが、子どもや保護者は心配だろう。学校の教員、校長や担任にも気軽に相談してほしい。準備委員会だと公式で時間がかかる場合があるので、小さいことでもなんでも学校に言ってほしい。教育委員会でもよいが、話しやすいところに話してほしい。一緒に考えていきたい。

参加者 この再編計画案は、これまでの紆余曲折があったと思うが、この先10年20年先の子どもの人口の推移をみても、個人的にはあながち無茶苦茶なことは言っていないと思う。戦後、和泉地区でも小中学校の再編はずっとあった。結局1校になり、今は1校を維持するのもかなり困難な状況になってきた。歴史から見ればあながち突拍子もないことを言っているとは思わないが、実際、激変緩和の措置がないと、不安が大きく前に進めない。今回の案は激変緩和を考えて段階的に進めていこうというもの。人間の意識は現実が目の前に突き付けられないとなかなか納得できないものなので、おおむねその方向の議論に代わってきたということで、評価をしている。今後の数字を見たら惨たんたるものがある気はするが。地域の核で、地域住民の拠り所となっているこの学校は、中学校がなくなると小学生だけでは使いきれないくらい広い。築16年ですぐ潰すわけにもいかない。空き

スペースの使い方は考えているか。地域で使えるようにしたいというプランはあるか。

市教委 この前の保護者の説明会でも同じ意見が出た。PTAの奉仕活動で、小学校の保護者だけではやっていけないという率直なご意見をいただいた。体育館はトレセンで小学校の子が使っているが、校舎は中学校の部分が空く。空いたスペースをどうするかは、市にプランはない。乾側地区でも今地区内の協議会でどうしたいかという案を練っている。その案に100%答えられないかもしれない。まずは市教委が入った中で、こういった活用策がいいのか、地区としてはどういったことを望まれるのか議論していきたい。

コロナで去年は中止になったが、紅葉まつりに和泉小中学校の児童生徒が参加している。和泉中学校がなくなっても地域の子どもたちは地域の子どもたち。たとえば週休日、土曜日、日曜日に、紅葉まつりの準備を中学校の生徒と小学校の子どもたちが一緒にやるという活用の仕方はある。地域で育ててきた子どもたちを縦のつながりで活かしていく方法を、教育委員会と地域の方と一緒に知恵を出しながら考えていきたい。

参加者 陽明中学校は間もなく築50年になるが、耐用年数はどれくらいか。あと10年で改築の時期が来るのではないか。サイクルや年数を決めて作っているのでは。

市教委 基本的には、おおむね60年程度と言われている。耐用年数が近づいてきた時には、必要な改修を行わないといけないことも出てくる。今後は必要になるとは考えている。今回の再編では、あくまで既存校舎を活用するということであるため、今のところ移転する予定はない。

そういうことも視野に入れながら、2段階目の再編をするとしたら、判断が迫られると思う。

参加者 陽明中学校は交通の便が悪いわけではないが、より交通のよいところに移ることもあるのではないか。

市教委 あと10～20年の間には、中学校が1校か2校かという議論もしていかななくてはいけない。耐久性のこともある。第1段階が終わってから、継続して検討をしていこうという流れでいる。今の校舎は、現時点での耐久性をきっちり検査しているし、10年後にもきっちり検査をする。それぞれの学校の躯体やコンクリートには一つ一つ差があるので、しっかり検証して検討していく必要がある。

参加者 説明会の後、この案が正式な計画となるのだろうが、来年市長選挙があるが、新たな市長になった時に、今の市長とは全く考えが違った場合、この計画案が廃案になるのか、活かされるのか。

市教委 可能性の問題として、違う候補が出て、違う考えが打ち出される可能性はある。しかし、これまで数年間、昨年も大学の専門の方や市民の代表の方と議論を尽くし、意見交換会も41回行い積み重ねたものは、地域に関わることを長い間議論を重ねてきたものであるため、行政の継続性から維持されると考えている。

皆さんと一緒に議論を重ねてやってきたものであるし、子どものことや、保護者、地域の方、そのことをしっかり考え3年やってきた。個人的な強い思いとしては、早く子どもたちに望ましい環境を、大人の責任として整備したいと強く思っている。皆さんも同じだと思いたい。

参加者 文科省の小学校の教科担任制が検討されているが、県教委で教員の加配をしているが、市教委ではどのように考えているか。小学校でも英語教育を導入すると聞いているが、どうか。

市教委 文科省が教科担任制について打ち出している中に、今までも、実験や準備が難しいということで、理科の教科担任制が行われている。また、体育や音楽でできるだけ専門性の高い教員に教科担任制として、特に5、6年生に加配するという考えだった。令和3年度から、小学校の算数にも入れるという文科省の方針が打ち出された。県教委がTT加配、チームティーチングで教員2人が授業を進めていこうという加配を、大野市でも数名いただいている。そのTT加配をチームティーチングだけではなく、教科担任制にしていこうということで、小学校2校で算数の教科担任制を実施している。教科担任制は、理科だと1週間に3時間と2時間の日がある。音楽、体育は2～3時間の日、算数は週5時間程度で、とても多い時間数になる。小学校は今まで学級担任制なので、学級担任が算数を教えるべきだという考え方だった。しかし、より専門的な知識や技能のある算数の免許を持った教員が教科担任で指導することで、成果が表れるのではないかと考えている。今年度から始めたので、状況を見て今後に生かしたい。

参加者 和泉小中学校でも教科担任制を進める計画はあるか。

市教委 今、小学校2校で算数の教科担任制を実施しているので、その状況を見て大野市全体に広げることは可能と考えている。

参加者 十分県教委とも相談して進めてほしい。

④閉会のあいさつ（事務局長）